諦めたらそこで終わり

活動先：NPO 法人　孝行の会

この一年間サービスラーニングの活動を通してとても多くのことを学んできたが、やはり夏休みに活動へ行ったことが自分の成長に一番関係していると思う。私は元々孝行という言葉は知っていたが、今までに一度も人に孝行と言えるほど感謝の気持ちを表したことがなかったため、この活動先ではどのような活動を行っているのか知りたいという簡単な気持ちで孝行の会を選んだ。だが、実際に活動へ行ってみると数え切れないほどの気づきがあった。

その中でも特に印象に残っているのが孝行の会には七十歳代のヘルパーさんが三名もいるということであった。七十歳代というともう仕事などを退職して自分のために時間を費やしている頃なのに、その歳になってもまだヘルパーを続けている理由を尋ねてみると「自分が辛かった時に人に助けられたから今度は自分が助けたい」や「元々病気を患っていたが、人を助けるようになってから病状がよくなってきたからこれからも続ける」といった理由を教えてくれた。それを聞いて、人を助けたいという気持ちがあれば年齢など関係なく何でも出来るということ、人を助ければいつかは自分に必ず返ってくるということに気づくことが出来た。この経験がなかったら、一生このことを知ることはなかったであろう。

そしてもう一つ、活動を通してコミュニケーションを取ることの大切さを学ぶことが出来た。私は昔からコミュニケーションを取ることが苦手で、普段も家族や親しい友人以外自分から話しかけることもあまりなかった。だがしかし、活動先ではコミュニケーションをたくさん取ることが目標であったし、自分の思っていることは言葉にしなければ何も伝わらないということで、利用者さんの家族のことや昔の話など何気ない話からだんだん会話を膨らませていくと、自然とほかにもいろんな会話をすることが出来た。コミュニケーションを取ることが苦手な私が自分からこんなにたくさんの話をすることが出来るなんて信じられなかった。そして数日後には代表の方にもコミュニケーションをたくさん取れるようになった、と褒めていただくことが出来た。普段自分から話しかけることが苦手な私にとっては、大きな成長になったのではないかと思う。そしてこの経験は私のアルバイト先のスーパーでも活かされ、ある日今まで話したことがなかった高齢のお客さんに自分から話しかけてみたところ、次の日から「お姉ちゃんと話すのが楽しみだからまた来たよ」と毎回私のレジに来てくれるようになった。こんな風に思ってくれていた人がいるということを知ると、本当に嬉しくてこれからの私の自信にもつながったと思う。このように、専門職を目指すにはまだまだ私のコミュニケーション能力は足りないが、活動先へ行く前の自分と比べてみると周りも認めてくれるほど、私は成長出来た。

そして活動を通して見えてきたこれからの社会課題として、私が孝行の会で活動をさせていただいた経験から「年齢や障害の有無などは関係なく、働きたいという気持ちの強い人間がたくさん活躍出来る場づくり」が必要ではないかと感じた。私自身も孝行の会に活

動へ行って七十歳代のヘルパーさん三名と対面する前は、七十歳代ならもう自分の趣味などのために時間を使えばいいのに…と思っていたが、実際に対面してみると三名とも七十歳を超えているようにはとても見えないし、人を助けたいという気持ちがとても強く伝わってきた。だがしかし、今の世の中は何かやりたいことがあっても高齢だからとか、障害があるからという理由でやむを得なく諦めてしまうことが多い。仕事でも、まだ本人は働く気があってもほとんどの会社はいつか退職をさせられてしまう。働く気のない人は別として、孝行の会のヘルパーさん三名のようにいくつになっても働きたいという気持ちがある人は、自分の気が済むまで働かせるべきであると思う。私も孝行の会のヘルパーさんを見て、将来は限界が来るまで自分の好きな仕事をずっとやり通したいと思うようになった。やはり昔からの決まりというものがあるため、なかなかこういった夢を実現するのは難しいと思うが、これから一人でも多くの高齢の人や障害を持った人が自分の気が済むまで世の中で活躍出来るようになってほしい。また、それを受け入れることの出来る環境が増えていってほしいと思う。そのためには私たちのように福祉を学んでいる人間が中心となってゼミやサークル活動などでそれぞれの地域住民たちに理解を得て、これから少しずつでも良い世の中になるよう努めることの出来る機会を増やしていきたい。